

コンゴ(民)月例報告
政治関連
2019年8月

主な出来事

- 14日、南北キブ州の治安状況に関し、2017年6月から2019年6月までの2年間で約1,900名の市民が殺害され、3,300名以上が誘拐されたとする報告書が発表された。市民の殺害事案の3割が北キブ州ベニ地区に集中している。
- 16日、南キブ州で初のエボラ感染2例が確定した。
- 26日未明、イルンガ首相は連立政権の新内閣名簿を発表した。
- 26日、チセケディ大統領はコンゴ(民)大統領として初となるTICADに参加のため、東京に向けてキンシャサを出発し、30日には、チセケディ大統領は安倍首相と首脳会談を行った。
- 27日、イルンガ前保健大臣は、エボラ対策における公金の使用に関し事情聴取を受け、31日には国外への移動を禁止された。
- 31日、グテーレス国連事務総長は、初のコンゴ(民)訪問のため北キブ州ゴマ市に到着した。

1. 内政

(1)新内閣の組閣

- ・11日、カビラ前大統領陣営の議会多数派プラットフォーム「FCC(Front Commun du Congo、コンゴ統一戦線)」と、チセケディ大統領陣営のプラットフォーム「CACH(Cap pour le Changement、変化への方向)」の代表は、両プラットフォームに割り当てられた内閣ポスト(当館注:FCC42ポスト、CACH23ポストの合計65ポスト)に関し、各ポストに対し3名の候補者(うち1名は女性)を記載したリストをイルンガ次期首相に提出した。
- ・14日、チセケディ大統領は、イルンガ次期首相が提出した内閣名簿の初版について、「女性閣僚及び新旧世代のバランスが考慮されていない」の理由で拒否し、改訂を求めた(14日付 AFP)。(当館注:実際にはこの日に内閣名簿は提出されていないとの情報もある。)
- ・15日、マブンダ国民議会議長は、チセケディ大統領からの13日付書簡により、今月19日から9月7日まで臨時国会を招集したと発表した。同臨時国会の議題は政権の承認、政府行動大綱のヒヤリング及び内閣の信任である(15日付 AFP)。
- ・20日、ムウィラニヤFCC調整役とラマザニ・シャダリPPRD常任書記は記者会見を行い、FCCが新内閣における閣僚の若返りを行った等述べた(20日付 FCCツイッター)。
- ・21日、チセケディ大統領は訪問先のルアンダでの記者会見で、すべてが順調ならば明日(22)日には内閣名簿の初版とともに首相と面談し、同日夜には内閣名簿が発表されると述べた(21日付 Radio Okapi)。
- ・26日未明、イルンガ首相は連立政権の新内閣名簿(当館注:最終的に66ポスト)を発表した。これは、チセケディ大統領の就任から7か月後となる。新内閣の男女比は男性が83%、女性が17%である。

(2)汚職対策担当者の任命

- ・8日、チセケディ大統領は大統領令で、7月に発表した、汚職対策のため大統領府に「メンタリティ変容調整部」を創設する件に関し、同部署のメンバーを任命した。同日の大統領令ではまた、ドナーからの支援で行う政府のプログラムの実施状況を監視するための「外部財源調整・プロジェ

クトモニタリング部」を大統領府に設置した。

(3)電力へのアクセス拡大は政府の経済的優先事項

・20日、チセケディ大統領は中央コンゴ州マタディ市で開催された第1回電力フォーラムで、チセケディ政権における経済の優先事項は電力へのアクセス拡大であると述べた。当国における電力のアクセスは現在8%程度である(20日付 AFP)。

(4)キンシャサ市地区長の任命

・20日、ンゴビラキンシャサ特別州知事は条例で、キンシャサに24ある地区(コミューン)のうち、9の地区長(Bourgmestre)を配置換えし、10の地区長を新たに任命した。(当館注:今回の任命は正式の地方選挙を経ておらず、各方面からの批判を受けている。)。

(5)初等教育無料化実現の可能性

・21日、オクンジ初等教育大臣代行は記者会見で、すべての初等教育を無料化すると発表した。翌22日には、9月からの新学期に向けた実現のためのラウンドテーブルが行われた(22日付 AFP)。(当館注:コンゴ(民)憲法第43条では初等教育の義務及び無料が定められている。)

(6)野党の動向

ファユル ECiDe 党首のキンシャサでの集会

・4日、ファユル ECiDe 党首は、7月30日にルブンバシで行われた野党プラットフォーム Lamuka の執行部会議を受けてキンシャサ市のルカ基地で集会を行い、約1000名の支持者を前に、チセケディ大統領が当選した選挙結果に引き続き意義を唱えるとともに、エボラ対策の陣頭指揮を執るムエンベ国立生物医学研究所(INRB)教授への支援を表明した。

2. 外交

(1)チセケディ大統領のタンザニア訪問

・16日-18日、チセケディ大統領は第39回 SADC 首脳会議に出席のためダルエスサラームを訪れた(16日付大統領府ツイッター)。

(2)チセケディ大統領とロウレンソ・アンゴラ大統領、ムセヴェニ・ウガンダ大統領、カガメ・ルワンダ大統領及びサス・ンゲソ・コンゴ(共)大統領の第2回ミニ首脳会議

・21日、チセケディ大統領はロウレンソ・アンゴラ大統領の招きにより、ムセヴェニ・ウガンダ大統領、カガメ・ルワンダ大統領及び今回加わったサス・ンゲソ・コンゴ(共)大統領と共にルアンダでの第2回ミニ首脳会議に参加し、地域の安定について協議した。また同首脳会議では、ウガンダとルワンダの関係修復に関するMoUが署名された(21日付大統領府ツイッター)。

(3)チセケディ大統領の日本初訪問(TICAD7)

・26日、チセケディ大統領はコンゴ(民)大統領として初となるTICADに参加のため、東京に向けてキンシャサを出発した。
・29日、チセケディ大統領は世耕経済産業大臣と会談し、コンゴ(民)での投資について協議した。
・30日、チセケディ大統領は安倍首相と首脳会談を行った。
・9月1日未明、チセケディ大統領は28日から30日に横浜で開催されたTICAD7及び一連行事への出席を終え、キンシャサに到着した。

3. 東部及び大湖地域情勢

(1)北キブ州ベニ地区情勢

・4日から8日にかけて、ベニ地区周辺で ADF(民主同盟軍、ウガンダ系反政府武装勢力)及び

ADF と思われる武装集団による襲撃が5件発生し、約20名が殺害され、約30名が行方不明となっている(5日、6日、8日付 AFP)。

・19日、ベニ地区オイチャで行われた、地域の治安状況に抗議するデモ行進に警察が発砲し、子ども1名を含む3名が死亡した(19日付 AFP)。

・24日、コンゴ(民)国軍(FARDC)は、グラン・ノール(北キブ州北部)での対武装勢力作戦「ソコラ1(Sokola 1)」の司令官をムバング師団長からンドゥル准将に交替したと発表した。同人事はチセケディ大統領の要求によるもの(26日 RFI ラジオ)。

・30日、FARDC は、ADF の追跡に協力した市民に対し1,000ドルから50,000ドルの報奨金を支払うと発表した(30日付 AFP)。

・31日、FARDC は AFP を含むメディア2社に対し、2014年以降にベニ地区で1,662名の兵士が死亡したと発表した(31日付 AFP)

(2)イツリ州情勢

・23日、イツリ州イルム地区(北キブ州との州境)で、武装勢力と FARDC の戦闘があり、10名以上の市民が誘拐された。同戦闘では武装勢力側2名と FARDC 側1名の負傷者が生じており、情報提供者のひとりは、ADF による犯行であると指摘した(23日付 AFP)。

・24日、イツリ州ジュグ地区で武装勢力と FARDC が交戦し、FARDC 兵士3名が死亡した。なお FARDC によると、FARDC は同作戦で20名の民兵を殺害した(24日付 AFP)。

(3)南キブ州カフジ=ビエガ国立公園でのエコレンジャー殺害

・12日、仏 TV5は、世界遺産に指定されている南キブ州のカフジ=ビエガ国立公園で、エコレンジャーが1名殺害されたと報じた。同公園では土地の所有を主張するピグミー族とエコレンジャーの争いが続いている(12日付 TV5)。

(4)マニエマ州での Banro 社職員の誘拐

・13日、南キブ州の FARDC 報道官は、7月26日にマニエマ州でマイマイ・マライカと思われる集団(当館注:マイマイは自警団的な性格をもった武装集団)に誘拐された、探鉱を行う Banro 社(加)の職員4名(南ア及びジンバブエ人各1名、コンゴ(民)人2名)のうち、コンゴ(民)人2名が無事釈放されたと AFP に伝えた(13日付 AFP)。また、翌14日には、ジンバブエ人も無事釈放された(14日付 AFP)。

(5)南北キブ州の治安状況に関する報告書

・14日、人権系 NGO のヒューマン・ライツ・ウォッチとニューヨーク大学国際協力センター(CIC)の研究プロジェクト「Groupe d'Etude sur le Congo(コンゴ(民)に関する研究グループ、GEC)」は、南北キブ州の治安状況に関する報告書で、2017年6月から2019年6月までの2年間で、約1,900名の市民が殺害され、3,300名以上が誘拐されたと発表した。同報告書によると、これら地域には130以上の武装勢力が存在し、市民の殺害事案の3割が北キブ州ベニ地区に集中している(14日付 AFP)。

(6)南キブ州初のエボラ患者発生

・16日、南キブ州で初のエボラ感染2例が確定した。患者が発生したのは同州ムウェンガ地区で、うち1名はすでに死亡した(16日付 AFP)。

・19日、南キブ州の保健当局は、16日にエボラで死亡した女性の7歳の子どもが18日に死亡し、また、同州でさらに2名のエボラ感染例が確定されたと発表した(19日付 AFP)。

4. その他

(1)ルワンダによる国境の一時閉鎖

・1日、ルワンダは、同日午前から数時間の間、ルワンダのギセニ市とコンゴ(民)のゴマ市を結ぶ両国の国境を数時間の間閉鎖した。これに先立ちゴマ市では、3例目のエボラ出血熱感染例が確定していた(1日付 AFP)。

(2)アンゴラに滞在するコンゴ(民)人難民の帰還

・20日、コンゴ(民)と国境を接するアンゴラのレンダ・ノルテ州に2017年から滞在するコンゴ(民)難民を収容するロヴァ難民キャンプの委員会は、今月18日以降、約8,000名の難民が徒歩でコンゴ(民)への帰還を始めたと語った。これに先立ち7月31日、カブヤ中央カサイ州知事が同キャンプを訪れ、難民が地元に戻ることを決定した。他方、同キャンプには現在も約12,000名の難民が残っている(20日付 Actualite)

(3)イルンガ前保健大臣への事情聴取

・27日、破毀院検事総長は、エボラ対策における公金の使用に関し、イルンガ前保健大臣に事情聴取を行った。なお、同前大臣と同じく事情聴取を受けた3名の関係者(うち1名は医師)は事情聴取後に勾留された(27日付 AFP)。

・31日、イルンガ前保健大臣は、入国管理局(DGM)から出国を禁止された。

(4)グテーレス国連事務総長のコンゴ(民)初訪問

・31日、グテーレス国連事務総長は、初のコンゴ(民)訪問のため北キブ州ゴマ市に到着した。同市では MONUSCO 関係者等とエボラ対策及び治安状況について協議・視察した。